

2016年12月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2016年12月3日(土)10:00~17:00

2. 開催場所
中部品質管理協会

3. 参加者<敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

井上	出	大見	出	牧野	出	横尾	書	山口	出	杉浦	出	佐藤	出	合田	出	石上	出	林	休
則尾	出	伊藤	出	船山	出	城越	出	雲丹亀	休	三浦	出	中山	出	池田	休	森	休	出島	出

4. 研究会のテーマ

4.1 輪講:第6章「品質保証部は不明項目の責任を」担当 横尾氏

次のようなディスカッションを行った。

- ・品質保証部のあり方
- ・開発試験と品質保証における信頼性試験の位置付け

次回は第7章 杉浦氏

4.2 テーマ:品質工学の普及について他 三浦氏

(1)社内品質工学啓蒙活動(コマ実験)報告

目的:品質工学活用の有効性を体感させる

内容:現場リーダーへのコマ実験セットを通した、品質工学の試験及び重要な手法を体験。

結果:最適設計品の全勝より、勘と経験では勝てないことをこの実験で納得して頂いた。

(2)学会報告「第9回品質工学技術戦略研究発表大会」

注目:(i)演題&事例研究が、ALLトヨタ自動車で品質工学を活用してしている状況。

(ii)「機能ブロック」の活用、事象分析の徹底。更に、伝承の重要性。

→日本一の製造会社エンジニアの叫び。現在の業務方法では、「日本が駄目に成ってしまう」と

公の前で危機感をアピール。日本一の会社の対応は、必ず周囲を巻き込み大きな流れに成ると判

5. 事例相談

5.1 標準試料の作成について 杉浦氏

- ・研究会の検討シートを活用し、目的の明確化と理想機能を考えるようにする。
- ・試料作成条件と評価条件を整理し、誤差因子を再考する。

6. APRT法計算演習 全員

合宿にて演習をした内容について、引き続き、各自で分析をおこなった。

7. 分科会活動 全員

各分科会毎に、テーマの内容についてディスカッションを行った。

8. 事務連絡

①11月合宿の会計報告:伊藤氏